



中部電力

◆◆◆浜岡原子力発電所の安全性向上に向けた取り組みのお知らせ 第66報◆◆◆

中部電力株式会社
浜岡原子力総合事務所
平成29年4月発行

今月号の主な内容は、

○工事の進捗状況等

新緊急時対策所の設置について

○審査会合および現地調査

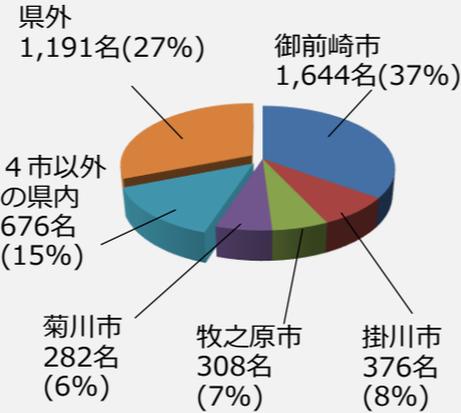
○静岡県および御前崎市による津波対策工事ほか追加工事の点検および確認についてです。



浜岡原子力発電所従事者数 (3月1日現在)

4,477名 (安全性向上対策工事従事者以外を含む)

【御前崎市・牧之原市・掛川市・菊川市在住：2,610名(58%)】



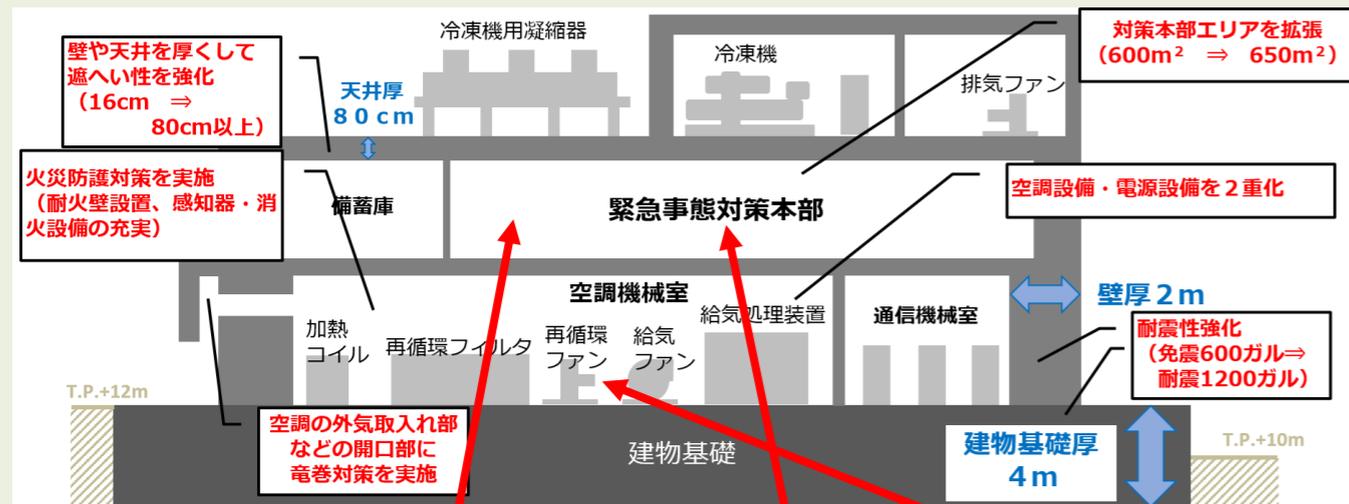
【工事の進捗状況等】

新緊急時対策所の設置について

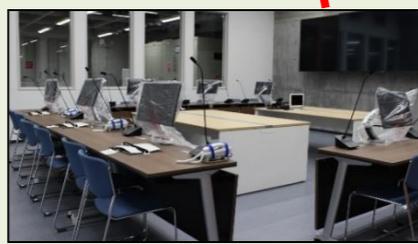
新緊急時対策所は、既存の緊急時対策所と比較して、耐震性や遮へい性などのさまざまな機能を強化しています。(詳細は下図参照)

これまでに、建物や空調設備の工事を終え、平成29年3月15日、建築確認完了検査を受検しました。今後、新緊急時対策所を利用した訓練等をおこなってまいります。

また、審査の状況を踏まえつつ、非常用電源発電設備の設置や緊急時対策所内の火災防護対策の工事を進め、早期の完工を目指します。



緊急事態対策本部 (2階)



緊急事態対策本部 (本部席)



再循環フィルタ・ファン (1階)

【審査会合】

原子力規制委員会による新規制基準適合性確認審査を受けています。(3,4号機を申請中ですが、現在4号機の審査が進められています。)

<4号機の進捗状況>

(平成29年3月31日現在)

項目	地震・津波等に関する事項		プラントに関する事項	
	回数	計17回	合同で2回実施	計57回

審査は、地震・津波等に関する事項とプラントに関する事項に分けておこなわれています。今後も、原子力規制委員会による審査に真摯に対応し、新規制基準に適合していることを早期にご確認いただけるよう努力していきます。

【新規制基準適合性審査に係る原子力規制委員会による現地調査】

3月27日から28日にかけて、浜岡原子力発電所3,4号機について、原子力規制委員会による現地調査がおこなわれましたので、お知らせいたします。

本調査では、発電所敷地および敷地周辺の地質・地質構造について、ご確認いただきました。

当社は、引き続き、原子力規制委員会による審査に真摯に対応し、速やかに新規制基準に適合しているとの確認をいただけるよう最善の努力を尽くしてまいります。



現地調査の様子
(浜岡原子力発電所 敷地内)



現地調査の様子
(浜岡原子力発電所 敷地周辺)

【静岡県および御前崎市による津波対策工事ほか追加工事の点検および確認について】

66回目となる3月29日、可搬型モニタリングポストの配備およびモニタリングポストの電源強化工事について点検を受けました。

静岡県から「可搬型モニタリングポストの配備およびモニタリングポストの電源強化工事について、中部電力の計画どおりに進んでいることを確認した。災害時に使用できるように確実に訓練をおこなってほしい。」との講評をいただきました。

御前崎市から「可搬型モニタリングポストの配備およびモニタリングポストの電源強化工事について、中部電力の計画どおりに進んでいることを確認した。今後も品質管理を徹底して工事をおこなってほしい。」との講評をいただきました。



可搬型モニタリングポストの配備点検の様子

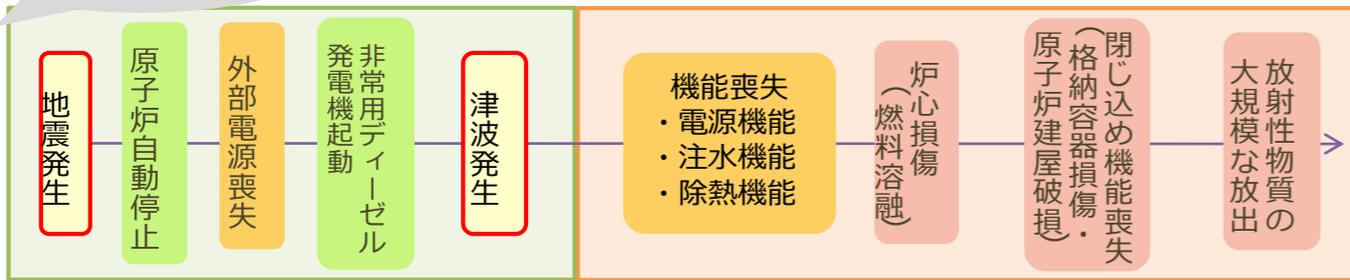
また、静岡県から「次回の点検は、4月28日に実施予定である。」旨の連絡がありました。

発電所の安全性を更に高めるための取り組み【概要】

福島第一原子力発電所の事故の教訓から、発電所では地震や津波等の様々な事態に対処するために、設備の追加配備や現場対応力の強化をおこなっています。主な取り組みをみなさまへ紹介いたします。

①福島第一の話

福島第一原子力発電所の事故の場合は、以下のように事象が進展しました。



発電所では、福島事故の前から電源や注水、除熱の機能をもつ設備を多重性・多様性をもって配備していますが、事故以降、様々な追加対策を講じ、更に発電所の安全性を向上させています。

②設備の話

従来の設計基準の事故に加えてより厳しい想定 of 重大事故に対処するため、様々な事態を想定し、対策を実施しています。また、対策に柔軟性を持たせるために、備え付けの設備だけではなく、可搬型の設備も配備しています。4号機に係る主な工事は、9月末にて工事を終了し、主要な機能（電源、注水、除熱等）は強化されてます。 ___ は工事・配備終了を示す

【主な設計基準事故対処設備】原子炉施設の安全を確保するための機器が、一斉に機能喪失しないようにします。

- 地震に耐える。**
 - Ⓐ配管サポート
- 津波を浸入させない。**
 - Ⓑ防波壁
 - Ⓒ大物搬入口
- 自然災害に備える。**
 - Ⓓ飛来物防護対策（海水取水ポンプ竜巻対策）
 - Ⓔ防火帯

【主な重大事故等対処設備】重大事故等の発生に備え、冷やす機能を確保し、重大事故に至らないようにします。また、重大事故等の発生を想定し、事故の進展を防ぐ機能を強化しています。

- 電源機能強化**
 - 恒設
 - Ⓕガスタービン発電機
 - 可搬
 - Ⓖ交流電源車
- 注水機能強化**
 - Ⓖ緊急時淡水貯槽
 - Ⓗ可搬型注水ポンプ車
- 除熱機能強化**
 - Ⓖ緊急時海水取水設備
 - Ⓙ可搬型取水ポンプ車

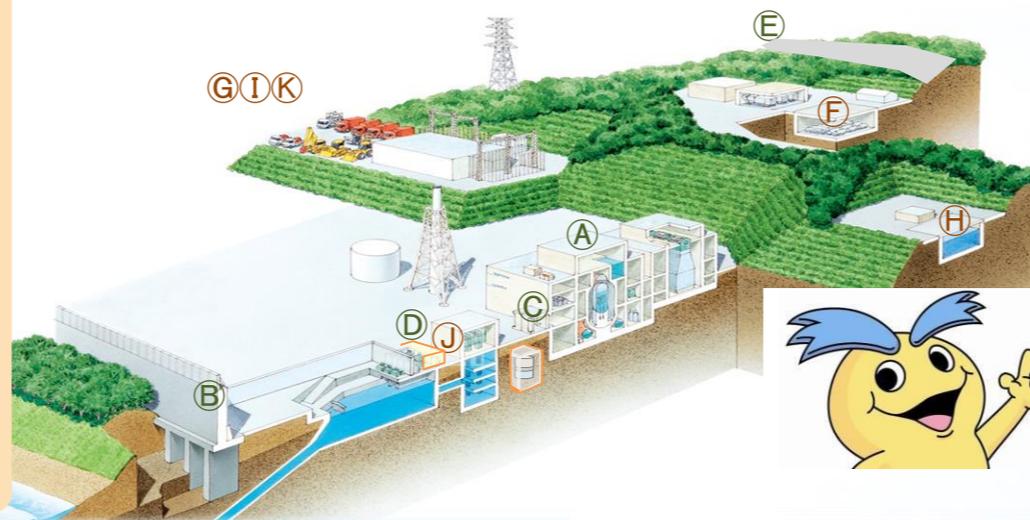
重大事故時に柔軟に対応するため、可搬型車両やその保管場所を確保し分散配置します。対応現場へ出動できるよう、複数のアクセスルートの確保に取り組んでいます。

Ⓙ防火帯

Ⓚ飛来物防護対策（海水取水ポンプ竜巻対策）

竜巻防護用の鉄板および金網を設置

Ⓛ発電所敷地外で発生した火災が発電所施設に燃え移らないように設置



③現場対応力の話

配備した設備が期待通りの機能を発揮するためには、扱う「人」の「現場対応力」が必要だと考え、強化しています。

【初動対応の強化】

緊急時即応班の立ち上げ準備をおこなっています。

- 24時間 365日体制
- 緊急時に特化した幅広い対応力



役割 (現在14名)

- ・戦略検討
- ・アクセスルート確保
- ・可搬設備の操作等 現場対応

【手順の整備・資格の取得】

設備導入に伴い、必要な手順の追加や免許等の資格の取得をおこなっています。



<取得免許例>

- ・大型自動車免許
- ・けん引免許
- ・移動式クレーン免許
- ・危険物取扱者（乙種4類）など

【資機材の充実】

発電所での活動に支障をきたさないよう様々な資機材を配備しています。

配備数を見直し、必要に応じて追加しました。



シンチレーションサーベイメータ



タイベックスーツ

【訓練の充実】目的に応じて様々な事故・事象への対応を網羅的に確認・強化し、緊急時に対応する組織の能力を総合的に向上させます。

総合訓練



主に現場や発電所外との連携、対応手順の確認を目的に実施しています。

図上演習



判断能力の向上を目的とした訓練を平成27年度から実施しています。

現場訓練



シミュレータ訓練



電源車操作訓練

新たに設置した設備の手順を確認するとともに、可搬設備の操作等に必要力量の向上に努めています。

浜岡原子力発電所では、安全性向上対策工事を進めています。また、配備された設備が期待通りの機能を発揮することができるよう現場対応力を強化しています。今後とも、更なる安全性の向上に努め、地域をはじめ社会のみなさまから、より信頼される発電所を目指して取り組んでまいります。